

ポーランドを代表する前衛集団

テアトル・シネマ によるシンポジウム&ワークショップ!

現代美術、ハプニングなどを取り込んだテアトル・シネマは、ポーランドの舞台芸術シーンから話題を呼び、彼らの活動は世界的に注目されている。今回は、彼らの基底となるメソッドによるワークショップ(伊丹)と、身体性/身振りを巡る視点から現在の私たちがどこに立っているのかを問い掛けるシンポジウム(東京・伊丹)によって、現代演劇へのアプローチを開示するだろう。

テアトル・シネマ ワークショップ

「Don't teach me, touch me.」

in 伊丹

2011年11月16日(水) ⇒ 19日(土) 19:00~21:30 アイホール カルチャールームA

講師 ▶ ズビグニェフ・シュムスキ(テアトル・シネマ/演出家) / カタジナ・ロトキェヴィチ=シュムスカ(テアトル・シネマ/美術家)

通訳 ▶ タデウシュ・アダム・オジュク

料金 ▶ 4000円(全日)

シンポジウム

「身体性の喪失」

in 東京

2011年11月12日(土) 19:00~21:30 森下スタジオC

パネラー ▶ ズビグニェフ・シュムスキ(テアトル・シネマ/演出家) / カタジナ・ロトキェヴィチ=シュムスカ(テアトル・シネマ/美術家)

清水信臣(劇団解体社/演出家) / 高瀬久男(劇団文学座/演出家)

司会 ▶ 高橋宏幸(演劇批評家) 通訳 ▶ 久山宏一 料金 ▶ 1000円

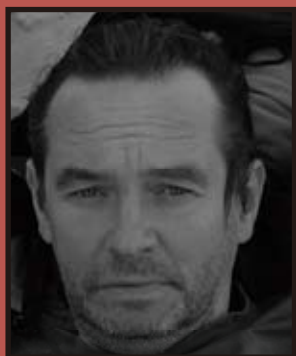
in 伊丹

2011年11月20日(日) 19:00~21:30 アイホール カルチャールームA

パネラー ▶ ズビグニェフ・シュムスキ(テアトル・シネマ/演出家) / カタジナ・ロトキェヴィチ=シュムスカ(テアトル・シネマ/美術家)

清水信臣(劇団解体社/演出家) / 田中孝弥(清流劇場/演出家) / 大貫隆史(批評理論)

司会 ▶ 鴻 英良(演劇批評家) 通訳 ▶ 久山宏一 料金 ▶ 1000円



Zbigniew Szumski
ズビグニェフ・シュムスキ

1956年、ソポト市生まれ。グダンスク美術大学で絵画・グラフィックアートを専攻する。1983年卒業。指導教官は、イェジ・クレホヴィチ教授。線描画、工芸、舞台美術分野で創作活動を行う。国際ポスター展入賞(ヴッパータール、ミュンヘン、ハンブルク)。1992年より、テアトル・シネマ代表。ミハウォヴィツェ在住。

グダンスク美術大学卒業(絵画、グラフィック・デザイン専攻)。
1992年、画家・俳優グループとともに、ポーランド前衛演劇を代表する劇団テアトル・シネマを創立。女優、舞台美術家、製作として関わる。2003年には、ミュンヘン・シュピールアート演劇祭において、ポーランド・プログラムのコーディネーターを務める。2007年、Cooperativa Gimnastica Mexico-Polaca(メキシコ・ポーランド身体共同作業)を共同で創設し、そのメンバーを務める。2005年から演劇音楽フェスティバルを共同で組織し、製作を担当。

カタジナ・ロトキェヴィチ=シュムスカ

Katarzyna Rotkiewicz-Szumaska



文化庁委託事業「平成23年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」 制作：日本演出者協会

共催：ポストヒューマン・シアター/アイホール

助成：公益財団法人セゾン文化財団 協力：ポーランド大使館



AI-HALL

公益財団法人セゾン文化財団

I, CULTURE

